

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおいにぎわいのある親しまれる港づくり			3年度事業・施策評価結果		責任者	総務部 広報・にぎわい 振興担当課長	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト			
事務事業名	名古屋港のPR			継続	維持	縮小	連絡先	
目的	対象(誰・何を)	県民市民、一般来港者、港湾関係者					連携課	行政管理課
	意図(どういう状態にしたいか)	名古屋港の取組、施策、状況、特徴や変化について広く関心や理解を得られる状態にする。					事業期間	昭和26年度～
概要	練習帆船・汽船等の誘致・一般公開を実施するとともに、「海の日名古屋みなと祭」開催に協力する。また、印刷物・広報番組・広報紙の作成・製作、港務艇による港内見学「みなと体験ツアー」の開催、ホームページの運営及びSNSを活用し、PRを実施する。						根拠法令等	
							実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
							関連シート	

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	帆船(1隻)及び汽船(3隻)の誘致、「海の日名古屋みなと祭」開催に代わる「サプライズ花火」及び「冬のイベント」開催への協力、印刷物「Port of Nagoya」「要覧」「ようこそなごやこうへ」「わたしたちの名古屋港」の発行を行うとともに、広報番組「What's 名古屋港」(3回)・広報紙「広報なごや港」(4回)・新聞広告(15回)の製作、ホームページ及びSNS(Facebook、InstaGRam、Twitter、YouTube)の運営・Instagramフォトコンテストの開催、「みなと体験ツアー」(13回)・PRイベントの実施や民間活力による花火イベントの調整協力を行った。 帆船・汽船の一般公開及び「海の日名古屋みなと祭」開催への協力は、新型コロナウイルス感染症(以下「感染症」という。)の影響により実施できなかった。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	63,292	31,606	48,693	50,374	
人件費	千円	82,566	82,449	81,000	81,000	
合計	千円	145,858	114,055	129,693	131,374	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	3	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
SNS投稿へのいいね等の数(件)	目標	17,000	23,000	24,000	37,000	38,500	名古屋港の関心を測る指標としてSNS(Facebook、Instagram(R2d~)、Twitter及びYouTube(R4d~))の投稿記事へのいいね等のリアクション数を設定した。目標値は過去実績を踏まえて着実な向上を目指して設定した。	通信環境 情報提供 媒体の変化
	実績	22,900	21,881	30,115	40,083			
【単年度管理型】	事業進捗状況(4年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る			
船舶一般公開見学者数(人)	目標	7,700	7,700	7,700	7,700		目標値は、平成29年度の110周年を除いた過去5年間(平成24~28年度)の合計値(38,390人)の平均 38,390人÷5年間≒7,700人/年間	季節 天候 感染症 寄港数 実施内容
	実績	17,509	-	-	-			
【単年度管理型】	事業進捗状況(4年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	SNS投稿は、情報発信の強化を推し進めるため、投稿スケジュールを作成し効果的な発信に努めるとともに、より多くのユーザーに情報が届けられるようFacebook広告、名古屋港水族館との連携、Instagramフォトコンテストの実施を行った。こうした取組を継続してきたことにより、各媒体のフォロワー数も着実に増加しており、それに伴い投稿へのいいね等の数も増加し、目標を上回る実績となった。 船舶一般公開見学者数は、感染症の影響により一般公開は実施できなかった。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？ 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあってるか？	○	名古屋港のPRは港湾管理者である本組合が主体的に取り組むべき事業と考える。加えて、民間事業者等の意見を取り入れながら港の認知度向上に資するように努めていく必要がある。					
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？ 期待どおりの成果が得られているか？	○	名古屋港への理解を深め、関心を高めることは施策目標の達成には必須の条件と考える。Facebook及びInstagramページ投稿へのいいね等の数については、目標値の約25%増となり、期待以上の成果が得られた。					
効率性	最小のコストとなっているか？	○	既存のイベントを最大限に有効活用しながら事業の実施が図られたと考える。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	取組を継続し、目標達成を目指すことから「維持」とする。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			5年度以降の取組
利用者にとって、わかりやすく伝わりやすい情報発信とするための工夫や方法、利用者ニーズへの柔軟な対応が必要である。			情報発信の強化や、更なる効果的なPRを行っていくため、多様なニーズの把握に努めるとともに、それらに対する的確な情報発信の工夫を図っていく。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり	3年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 水族館事業担当課長	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成	成果	コスト				
事務事業名	名古屋港水族館の振興	継続	拡大	拡大	連絡先	052-654-7816	
目的	対象(誰・何を)	広く一般の利用者				連携課	
	意図(どういう状態にしたいか)	海洋文化の普及に努める。				事業期間	平成18年度～
概要	水族に関する知識を広め、水族への親しみを深めることにより、県民・市民の自然環境に対する意識の高揚を図るとともに、健全な余暇の活用に資する名古屋港水族館の振興を図る。					根拠法令等	指定管理者による公の施設の管理に関する条例、名古屋港水族館条例
						実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連シート	

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	感染症対策を実施しながら、開館30周年を記念した様々なイベントを開催するなどPRを行った結果、3年ぶりに入館者数は200万人を超えた。そのため、令和2年度、3年度は、施設の維持に必要な経費を補うため指定管理料を支出したが、令和4年度は指定管理料の支出をせず、指定管理者(公益財団法人名古屋みなと振興財団)より納付金77,783千円が納付された。 特別展については、開館30周年に合わせて過去30年間のうち好評であった5つの展示をダイジェスト版で再現した。また、新しい試みとして開館前の生き物の様子を見たり食事が楽しめる「水族館deモーニング」を開催した。 クラウドファンディングの実施や市内観光施設、地元企業等と連携するなど、水族館のPRに取り組んだ。 名古屋港水族館中長期計画基礎調査(その2)を委託し、調査結果を取りまとめた。 施設の老朽化の状況を踏まえ、大規模補修の内容、時期、効果等について、愛知県、名古屋市と連携し検討した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	898,448	1,130,401	1,051,965	171,751	令和4年度は、入館者数が予定より増加し、指定管理料の支出がなかったことから、指定管理料の支出があった令和2年度、3年度に比べ事業費が減少しており、また、工事費等が少なかったことから事業費が減少しております。
人件費	千円	39,448	39,392	38,700	47,700	
合計	千円	937,896	1,169,793	1,090,665	219,451	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標 5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因	
入館者数(万人)	目標	220	220	225	225	230	指定管理者の目標値を参考に、直近5年の最高値(H29:約220万人)を2%上回る225万人を令和4年度目標値とする。	天気 景気 感染症
	実績	200	92	132	206			
【単年度管理型】	事業進捗状況(4年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
来館者の満足度(%)	目標	80	80	83	83	85	平成30年度の満足度(80%)を3%上回る83%を令和4年度目標値とする。 来館者のアンケート実施結果	
	実績	98	—	99.5	98.5			
【単年度管理型】	事業進捗状況(4年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	入館者数については、昨年度よりも増加したものの、目標は達成できなかった。 また、来館者の満足度については、目標83%に対し、98.5%と非常に高い評価を得た。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	<input type="radio"/> 本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か? <input type="radio"/> 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっていないか?	<input type="radio"/> 親しまれる港づくりを推進するため、本組合が関与する必要があると考えている。また、広く一般の利用を対象として海洋文化の普及に努めており、利用者ニーズや社会環境に適合している。						
有効性	<input type="radio"/> 事務事業の目的は、施策達成に貢献するか? <input type="triangle-up"/> 期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/> 入館者数は、昨年度を大きく上回ったが目標値はやや下回った。 <input type="triangle-up"/> コロナ禍においても魅力ある港湾空間の形成と海洋文化の普及に貢献している。						
効率性	<input type="radio"/> 最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/> 施設の維持修繕等は優先順位を定め、最少のコストで最大の効果が得られるよう努めている。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	拡大	拡大	感染症の影響により「目標値をやや下回る」結果となり、海洋文化の普及を図り、イベントの開催や積極的なPRにより、入館者数を増加する必要があるため成果は「拡大」とする。 大規模補修を見据え委託調査を実施する必要があるため、コストは「拡大」とする。
資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。			
課題			5年度以降の取組
入館者数の増加策や財源確保の方策を検討していくとともに、水族館を広く一般の利用者に対して継続してPRしていく必要がある。 社会教育施設として種の保存、調査・研究についても継続して実施していく必要がある。 施設の老朽化を踏まえた大規模補修のあり方や進め方について、愛知県、名古屋市と連携するとともに、有識者からも意見を聞きながら進めていく必要がある。			入館者数増加、収入増加の方策を財団と連携して取り組むとともに、生き物の調査研究としてNOAA(アメリカ海洋大気庁)と共同で気候変動等がアカウミガメに与える影響調査などにも積極的に取り組んでいく。 事業運営計画(中長期計画)策定、施設の老朽化を踏まえた大規模補修や機能強化のあり方や進め方について、有識者などから意見を聞き、組織全体で取り組んでいく。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおいにぎわいのある親しまれる港づくり	3年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 金城・中川・南5区 担当課長
施策名	うらおいと魅力のある港湾空間の形成	成果	コスト			
事務事業名	金城ふ頭における交流拠点開発の円滑な推進	継続	維持	維持	連絡先	052-654-7978
目的	対象(誰・何を)	金城ふ頭			連携課	管財課、港湾管理事務所
	意図(どういう状態にしたいか)	物流機能との共存を図りながら、交流拠点開発を円滑に推進する。			事業期間	平成29年度～
概要	名古屋市のモノづくり文化交流拠点構想の具体化を図るため、レゴランド・ジャパンを核とした複合開発に協力しており、今後もレゴランド・ジャパンの拡張や国際展示場第2展示館の移転改築等が予定されていることから、物流機能との共存を図りながら、交流拠点開発を円滑に推進する。				根拠法令等	
					実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
					関連シート	

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	港湾関係者へ国際展示場新第1展示館やコンベンション施設及び歩行者デッキの工事に関する月間工程の送付や旧第1展示館解体工事の概要説明をするとともに、大規模イベント時における交通対策等について、名古屋市と連携し、港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行った。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	0	0	0	
人件費	千円	11,926	11,926	11,700	11,700	
合計	千円	11,926	11,926	11,700	11,700	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
港湾関係者等の意見に対応した割合(%)	目標	100	100	100	100		100	交流拠点開発に伴う港湾関係者等からの意見・苦情等に対応した割合 対応した件数/意見・苦情等の件数×100 (意見・苦情等が0件の場合は100%とする)	
	実績	100	100	100	100				
【単年度管理型】	事業進捗状況(4年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る			目標値どおし 目標値を下回る		
	目標								
	実績								
	事業進捗状況(4年度)								
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)		港湾関係者からの意見等について、関係部署や名古屋市等と調整し対応した。							
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	物流機能との共存を図りながら、名古屋市等とともに交流拠点開発を円滑に推進する必要がある。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○							
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○	交流拠点開発が推進されることにより、うらおいと魅力のある港湾空間の形成や、更なるにぎわいの創出が期待される。						
	期待どおりの成果が得られているか?	○							
効率性	最小のコストとなっているか?	○	最小限の人員で対応している。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	金城ふ頭は港湾物流の拠点でもあることから、引き続き、物流との共存を図りながら交流拠点開発を推進し、うらおいと魅力のある港湾空間を形成する必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			5年度以降の取組
交流拠点開発は、物流機能への影響がないよう進めていく必要がある。			物流機能と共存した交流拠点開発について、名古屋市や関係部署と連携し、大規模イベント時等の交通対策について、引き続き、港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行っていく。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり		3年度事業・施策評価結果			責任者	企画調整室 環境担当課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト			
事務事業名	魅力ある港湾景観の形成		継続	維持	維持	連絡先	052-654-7892
	対象(誰・何を)	名古屋港内の景観				連携課	港営課・管財課
目的	意図(どういう状態にしたいか)	ロマンと活気にあふれた港づくりをめざして、魅力ある良好ものにしていく。				事業期間	平成5年度～
概要	臨港地区内の建築物等の景観について、名古屋港景観基本計画及びカラー計画マニュアルと整合が図られるよう事業者と調整する。また、名古屋港の歴史を物語る景観資源(歴史資源)の適正な管理に努める。 名港トリトンについては、ライトアップの今後のあり方を検討するとともに、既存設備の維持補修を行う。		根拠法令等				
			実施義務		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
			関連シート				

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	名古屋港カラー計画について4件の審査を行った。 景観アドバイザー制度について4件の相談を受けた。 歴史資源の維持管理マニュアルの作成作業を行った。 名港トリトンのライトアップ設備のあり方について関係者と検討開始し、また既存設備の維持補修を行った。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	28	6,528	641	2,715	
人件費	千円	3,670	7,339	6,300	8,100	
合計	千円	3,698	13,867	6,941	10,815	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標 5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因	
カラー計画マニュアルとの整合率(%)	目標	100	100	100	100	100	臨港地区内行為の届出等において、建築物等がカラー計画マニュアルと整合するように調整できた件数の割合を指標とする。(企業色や整合する既製品がない場合は対象外とする。)カラー計画マニュアルとの整合件数/審査件数×100(%)		
	実績	100	54	50	25				
【単年度管理型】	事業進捗状況(4年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る				
歴史資源5施設の維持管理マニュアル作成率(%)	目標	40	60	80	100	100	歴史資源5施設のうち維持管理マニュアルを作成した施設の数の割合(%)を指標とする。		
	実績	20	80	80	80				
【進行管理型】	事業進捗状況(4年度)		順調		やや遅れ・遅れ				
名港トリトンライトアップの検討の進捗状況(全3工程)	目標				1	2	以下の項目のうち、完了した工程数 ①ライトアップ設備のあり方について関係者と検討開始 ②耐震補強工事後のライトアップ再開に向けた調整 ③その後のライトアップ設備のあり方について関係者合意		
	実績				1				
【進行管理型】	事業進捗状況(4年度)		順調		やや遅れ・遅れ				
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)		カラー計画マニュアルの整合率は、協力を得られなかった事業者もあった(4件中1件)ため、目標値を下回った。 歴史資源施設の維持管理マニュアル作成率は、マニュアルの作成対象である施設が国の登録有形文化財であるが、文化財の管理目標が法等に規定されておらず、管理目標の考え方の整理に時間を要したため、完成が令和5年5月となり、やや遅れとなった。 名港トリトンライトアップについては、ライトアップ設備のあり方について関係者と検討開始したため、順調である。							
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	港内の良好な景観形成を計画的に進捗するために必要である。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっていないか?	○							
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○	「うるおいと魅力のある港湾空間の形成」に貢献しております。景観審査におけるカラー計画との整合率は下回りましたが、カラー計画への整合について周知・要請により、協力する事業者がいることから、成果は得られている。歴史資源の維持管理マニュアルについて、マニュアル作成済みの歴史資源については適切な維持管理が図られており、成果が得られているが、一部の施設については、マニュアルの作成がやや遅れとなった。						
	期待どおりの成果が得られているか?	△							
効率性	最小のコストとなっているか?	○	事業者からの相談に応じて、アドバイザーに相談している。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由	
	成果	コスト		
継続	維持	維持	カラー計画との整合を図ったが、協力を得られた事業者は4件中1件だったため、整合率が下回ったことや、維持管理マニュアルの整理に時間を要したため、完成が令和5年5月となり「やや遅れ」となったが、今後も継続して、魅力ある景観づくりに取り組んでいく必要があり、引き続き目標達成を目指すため、成果は「維持」とし、コストも「維持」とする。	
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。			
課題			5年度以降の取組	
引き続き新たな建築物等について、カラー計画との整合が図られるよう事業者の説明が必要がある。また、策定からカラー計画マニュアルは10年以上、景観基本計画については20年以上が経過しており、景観形成に関する環境変化に対応できるよう、計画内容を検証する必要がある。 名港トリトンについて、まずは耐震補強工事後のライトアップの再開が円滑に進むよう調整を実施する必要がある。			事業者が新築・改築の手続きを行う際、カラー計画を認識する機会を増やすよう、検討・調整を進めていく。カラー計画マニュアルや景観基本計画について、これまでの成果の内容を分析するなど、建築業界のトレンドと計画内容との乖離について検証を行っていく。 名港トリトンについて、道路管理者と適宜調整を実施する。	

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおいにぎわいのある親しまれる港づくり			3年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 関連事業担当課長	
施策名	うらおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト			
事務事業名	名古屋港ポートビルの管理・運営			継続	拡大	連絡先	052-654-7836	
目的	対象(誰・何を)	広く一般の利用者					連携課	
	意図(どういう状態にしたいか)	海事に関する知識の普及により、海事思想の高揚を図る。					事業期間	平成18年度～
概要	名古屋港ポートビル及び南極観測船ふじの良好な維持管理と高質な利用者サービスを提供する。						根拠法令等	指定管理者による公の施設の管理に関する条例、名古屋港ポートビル条例
							実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
							関連シート	

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	感染症拡大防止対策を実施した上で、海事・海洋文化についての理解を深めるため、南極観測船ふじ、海洋博物館及び展望室において、謎解きゲームと展示を組み合わせた参加型の特別展を開催した。また、広く一般を対象とした「南極教室」、「ボトルシップ製作講座」を開催する等、海事に関する企画・展示を行い、海事に関する知識の普及に努めた。加えて、名古屋港ポートビル及び南極観測船ふじの更なる認知度向上を目指し、SNSへの投稿を、イベント情報のほか景観等も素材とし、情報発信の機会を増やすことに努めた。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	148,110	128,817	129,772	93,498	令和4年度の事業費は、入館者数が大幅に回復したことにより収入が増加し、指定管理料が減少したため、令和3年度に比べ減少した。
人件費	千円	4,679	4,672	4,590	4,590	
合計	千円	152,789	133,489	134,362	98,088	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
入館者数(万人)	目標	46	46	47	47	48	指定管理者の目標値を参考に、平成30年度の入館者数(46万人)を3%上回る47万人を令和4年度の目標値とする。	天気 景気 感染症
	実績	45	15	25	38			
【単年度管理型】	事業進捗状況(4年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る		
来館者の満足度(%)	目標	80	80	83	83	85	平成30年度の満足度(80%)を3%上回る83%を令和4年度の目標値とする。来館者のアンケート実施結果	
	実績	85	-	85	86			
【単年度管理型】	事業進捗状況(4年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	入館者数は令和3年度より大幅に回復したものの、新型コロナウイルス感染症の影響及び南極観測船ふじの小火発生による臨時休館の影響を受け、目標値をやや下回った。来館者の満足度は、目標値を上回っており、展示内容等への意見についても概ね良好であった。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 海事に関する知識の普及は、本組合として必要と考える。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○ また、広く一般の利用を対象としており、ニーズに依っている。						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ コロナ禍においても海事に関する展示を通じた、海への親しみと知識の普及に貢献している。						
	期待どおりの成果が得られているか?	△ 入館者数は令和3年度より回復したものの、感染症等の影響により目標をやや下回った。						
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 施設の維持修繕等は優先順位を定め、最小のコストで最大の効果が得られるよう努めている。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由	
	継続	成果		コスト
		拡大		維持
課題		海事に関する知識の普及については、継続実施する必要がある。感染症の影響により入館者数は「目標値をやや下回る」結果となり、感染症拡大前の水準に回復する必要があること、引き続きSNS等の活用に取り組み、より効率的に海事に関する知識の普及を図る必要があることから、成果は「拡大」とする。コストは「維持」とする。		
サービス水準の維持・向上を図るため、引き続き、モニタリング等を実施し管理運営状況を把握する。また、施設の良好な維持管理、高質な利用者サービスの提供に努めるとともに、魅力的な展示等を通じてより多くの方に来館していただけるよう、指定管理者に対し指導・助言を行っていく。				

感染症拡大前の水準から減少した入館者数を回復させ、海事に関する知識の普及に取り組んでいく必要がある。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおいにぎわいのある親しまれる港づくり			3年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 関連事業担当課長	
施策名	うらおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト			
事務事業名	名古屋港湾会館の管理・運営			継続	拡大	拡大	連絡先	
目的	対象(誰・何を)	港湾関係者、船員その他海事関係者を始めとした利用者					連携課	052-654-7836
	意図(どういう状態にしたいか)	文化及び教養の向上と福祉の増進を図る。					事業期間	平成18年度～
概要	名古屋港湾会館の良好な維持管理と高質な利用者サービスを提供する。						根拠法令等	指定管理者による公の施設の管理に関する条例、名古屋港湾会館条例
							実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
							関連シート	

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	感染症の拡大防止対策を実施した上で利用促進に努め、2,641件の利用があった。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	66,042	72,212	62,068	57,956	令和4年度の事業費は、感染症の拡大防止に伴う指定管理料の増額を行わなかったため、令和3年度に比べ減少した。
人件費	千円	3,761	3,756	3,690	3,690	
合計	千円	69,803	75,968	65,758	61,646	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因	
会議室の利用率(%)	目標	33	33	34	34	35	平成30年度の利用率(33%)を1%上回る34%を令和4年度の目標値とする。 (利用率:提供可能な会議室数のうち使用された会議室数の割合)	感染症	
	実績	32	21	27	35				
【単年度管理型】	事業進捗状況(4年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る				
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	目標						会議室の利用率は、企業研修、健康診断等での利用増加により目標値を上回った。		
	実績								
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明							
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	港湾関係者、船員その他海事関係者を始めとした利用者文化及び教養の向上と福祉の増進を図ることは重要であるとする。また、一般の利用者にも開放しており、ニーズに依っている。						
有効性	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあってるか?	○	文化及び教養の向上と福祉の増進に貢献している。会議室の利用率は、企業研修、健康診断等での利用増加により目標値を上回り、文化及び教養の向上と福祉の増進に貢献している。						
効率性	期待どおりの成果が得られているか?	○	施設の維持修繕等は優先順位を定め、最小のコストで最大の効果が得られるよう努めている。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由
	継続	成果 維持 コスト 維持	
課題			5年度以降の取組
利用者のニーズに応えるとともに、更なる利用率の向上に向けた取組を行っていく必要がある。			サービス水準の維持・向上を図るため、引き続き、モニタリング等を実施し管理運営状況を把握する。また、施設の良好な維持管理、高質な利用者サービスの提供に努めるよう、指定管理者に対し指導・助言を行っていく。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおいにぎわいのある親しまれる港づくり			3年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 関連事業担当課長
施策名	うらおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト		
事務事業名	臨港緑地の管理・運営			継続	維持	維持	連絡先 052-654-7836
目的	対象(誰・何を)	広く一般の利用者			連携課		
	意図(どういう状態にしたいか)	にぎわいや憩いの空間を提供する。			事業期間 平成18年度～		
概要	臨港緑地の良好な維持管理と高質な利用者サービスを提供する。			根拠法令等		指定管理者による公の施設の管理に関する条例、名古屋港管理組合臨港緑地条例	
				実施義務		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
				関連シート			

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	屋内施設に消毒用アルコールを設置する等の感染症防止対策を実施した上で、安全に利用できるよう臨港緑地の良好な管理を行いながら施設提供に努めた。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	510,669	349,752	325,451	390,871	令和4年度の事業費は、緑地施設の補修費が増加したため、令和3年度に比べ増加した。
人件費	千円	28,531	28,491	27,990	27,990	
合計	千円	539,200	378,243	353,441	418,861	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標 5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
利用者数(万人)	目標	56.2	56.8	57.5	57.8	58	指定管理者の目標値を参考に、平成30年度の野球場、テニスコート、運動広場、サイクリングロード、マリンパーク(魚釣り含む)及びゴルフ場の利用者数(52万人)を11%上回る57.8万人を令和4年度の目標値とする。	天候 感染症
	実績	52.6	57.6	62.8	58.6			
【単年度管理型】		事業進捗状況(4年度)			<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を上回る <input type="checkbox"/> 目標値をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値を下回る			
利用者の満足度(%)	目標	76	77	78	79	80	平成30年度の満足度(75%)を4%上回る79%を令和4年度の目標値とする。利用者へのアンケート実施結果	
	実績	83	78	78	82			
【単年度管理型】		事業進捗状況(4年度)			<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を上回る <input type="checkbox"/> 目標値をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)		利用者数は、コロナ禍により屋外施設に多くの人が流れた令和3年度の実績を下回ったが、目標値を上回った。また、利用者の満足度についても、目標値を上回った。						
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	港湾の緑地を整備し運営することは、港湾管理者の責務であり、本組合の関与が必要と考える。また、運動施設・緑地等の管理・運営により、港のにぎわいと憩いの空間の創出につながっている。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○	コロナ禍により人との密になりにくい屋外施設に人が流れたことで利用者数は目標を上回り、施策達成に貢献している。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○						
効率性	最小のコストとなっているか?	○	施設の維持修繕等は優先順位を定め、最小のコストで最大の効果が得られるよう努めている。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由	
	成果	コスト		
継続	維持	維持	港湾の緑地の整備運営は、港湾管理者の責務であり、運動施設・緑地等の管理・運営は港のにぎわいと憩いの空間の創出につながっていることから継続して実施するため。なお、目標値は達成しているため「成果」「コスト」は維持とする。	
課題			5年度以降の取組	
コロナ禍による屋外施設の利用の増加に落ち着きが見られてきていることから、各種イベント開催等により利用促進の取組を強化するとともに、効率的な施設の維持管理に努める必要がある。			引き続きモニタリング等を実施し、施設の良好な維持管理と高質な利用者サービスの提供に努めるとともに、イベントを実施することで多くの方に利用してもらえるよう、指定管理者に対し指導・助言を行っていく。	

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり			3年度事業・施策評価結果		責任者	建設部 事業推進課長	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト			
事務事業名	中川運河緑地(堀止地区)整備事業			継続	維持	維持	連絡先	
目的	対象(誰・何を)	中川運河(堀止地区)					連絡先	
	意図(どういう状態にしたいか)	人びとが港の雰囲気を楽しむことのできる水辺空間を整備し、地域環境の向上を図る。					事業期間	
概要	整備場所:名古屋市中区運河町、中川区運河町 内容・規模:「親しまれるみなと」を実現するため、市街地の貴重な水辺空間に緑地を整備する。用地を造成し、水辺周辺一帯を緑地(1.1ha)として整備(用地・護岸、緑地)する。 全体事業費:9.9億円(令和2年度12億円から変更) 事業手法:防災・安全交付金事業(令和2年度より港湾環境整備事業)						根拠法令等	名古屋港湾計画、中川運河再開発基本計画、中川運河再生計画
							実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
							関連シート	

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	水辺一体の緑地整備として、植栽等を行った。 名古屋市の土地区画整理事業の事業期間の延伸に伴い、事業完了年度を令和5年度に延伸した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	13,113	26,712	18,806	7,359	
人件費	千円	1,651	1,283	2,160	2,070	
合計	千円	14,764	27,995	20,966	9,429	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	4年度	最終目標 5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因	
整備面積(ha)	目標	0.84	0.86	1.07	1.08	1.1	整備面積は、事業費による換算数量である。	周辺地区再開発	
	実績	0.84	0.86	1.07	1.08				
	【進行管理型】	事業進捗状況(4年度)			順調 やや遅れ・遅れ				
	目標								
	実績								
	事業進捗状況(4年度)								
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	ささしまライブ24地区の土地区画整理事業等と一体的な整備を進めており、堀止西側の緑地については平成29年4月に、堀止東側の緑地については改良中の運河橋詰部を除いて令和4年4月に供用を開始し、予定通り順調に進捗している。								
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明							
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か? 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	堀止に隣接するささしまライブ24地区の土地区画整理事業等と連携して地元のニーズを取り込みながら整備を進め、地域環境の向上を図る必要がある。						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	○	緑地の一部を供用開始しており、人びとが港の雰囲気を楽しむことのできる水辺空間を整備し地域環境の向上を図ることは、上位施策である「うるおいと魅力ある港湾空間の形成」に貢献すると考えております。本事業の進捗状況としては、順調に進んでいる。						
効率性	最小のコストとなっているか?	○	堀止に隣接するささしまライブ24地区の土地区画整理事業等と連携して効率的に整備を進め、コスト削減に努めている。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	人びとが港の雰囲気を楽しむことのできる水辺空間を整備し、地域環境の向上を図る必要があるため。
課題			5年度以降の取組
名古屋市の関連事業と調整を図りながら一体的な緑地整備を進める必要がある。		名古屋市の関連事業と連携して、引き続き親水緑地の整備を進めていく。	

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおい・にぎわいのある親しまれる港づくり			3年度事業・施策評価結果		責任者	建設部 事業推進課長	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト			
事務事業名	中川運河水質改善事業			継続	維持	維持	連絡先 052-654-7921	
目的	対象(誰・何を)	中川運河			連絡先		環境担当、工事課	
	意図(どういう状態にしたいか)	中川運河の水循環を促進し、市民等が水辺を不快なく散策できる水環境の創出を図る。			事業期間		平成26年度～令和5年度	
概要	整備場所:名古屋市中区川運河町、中川区西日置 内容・規模:中川運河の水循環を促進するため、松重ポンプ所の改修、露橋水処理センターからの高度処理水の活用(吐出管設置)を実施する。 全体事業費:10.7億円(令和3年度18.1億円から変更) 事業手法:社会資本整備総合交付金事業(令和2年度より港湾環境整備事業)						根拠法令等	
							実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
							関連シート	

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	松重ポンプ所の改修(新築工事、ポンプ設備工事、受変電設備工事、除塵設備工事)に着手した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	12,358	97,829	98,000	379,950	令和4年度 費用増額理由 松重ポンプ所の本体工事に着手したため、事業費が増額した。
人件費	千円	1,651	1,283	2,160	2,070	
合計	千円	14,009	99,112	100,160	382,020	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	4年度	最終目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業の進捗状況(全5工程)	目標	4	4	4	4		5	以下の項目のうち完了した工程数を合計する。 ① 調査 ② 事業採択 ③ 設計(松重ポンプ所改修) ④ 吐出管設置(高度処理水活用) ⑤ 松重ポンプ所改修 ※設計(掘止深場埋戻し(覆砂)及び掘止深場埋戻し(覆砂)整備については、松重ポンプ所改修後の放水量増加による水循環の効果を確認後、必要であれば検討することになったため削除。	
	実績	4	4	4	4		4		
【進行管理型】	事業進捗状況(4年度)			順調 やや遅れ・遅れ					
	目標								
	実績								
	事業進捗状況(4年度)								
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)		予定通り順調に事業が進捗している。							
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か? 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっていないか?	<input type="radio"/>	港湾管理者として、中川運河再生計画に基づき松重ポンプ所の改修等を行い、水質改善に取り組んでいく必要がある。						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>	中川運河の良好な水環境の創出は、上位施策である「うるおいと魅力のある港湾空間の形成」に貢献すると考えている。 本事業の進捗状況としては、順調に進んでいる。						
効率性	最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	関係行政機関、学識者を交えた委員会により経済性を踏まえて策定した施策であり、今後も事業実施に向けコスト削減に努めていく。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性			判断理由
	継続	成果	コスト	
		維持	維持	
課題				5年度以降の取組
中川運河水質改善施策を推進するためには、関係者とのさまざまな調整が必要である。また、本線や支線について効果を確認していく必要がある。				関係者調整を行いながら、着実に事業を進めていく。また、松重ポンプ所改修後は放水量増加による効果を確認していく。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおいにぎわいのある親しまれる港づくり			3年度事業・施策評価結果		責任者	建設部 金城・中川・南5区 担当課長	
施策名	うらおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト			
事務事業名	海上交通ネットワークの形成			継続	維持	維持	連絡先	
目的	対象(誰・何を)	金城ふ頭、ガーデンふ頭、中川運河、堀川					連携課	工事課、事業推進課
	意図(どういう状態にしたいか)	港内の各地区間や港と背後地域を結ぶ、新たな交流の道筋となる“水の交流軸”の形成を図る。					事業期間	平成30年度～令和5年度
概要	中川運河、堀川を利用し、歴史資産、観光拠点をめぐる海上交通ネットワークの形成を図る。					根拠法令等		
						実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
						関連シート		

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	海上交通ネットワークの形成を進めるため、利便性の向上に向け、金城ふ頭小型栈橋の整備に係る関係者との調整を行うとともに、施工に着手した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	33,118	34,056	0	318,574	令和4年度は施工に着手したため、前年度に比べ事業費が増額した。
人件費	千円	10,091	10,077	9,900	7,650	
合計	千円	43,209	44,133	9,900	326,224	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	4	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
金城ふ頭小型栈橋整備の進捗状況(全4工程)	目標	2	3	3	4		4	下記項目のうち完了した工程数を合計する。 ① 基本計画 ② 基本設計 ③ 実施設計 ④ 整備	新型コロナウィルス感染症の影響等
	実績	2	3	3	3				
【進行管理型】	事業進捗状況(4年度)			順調・ やや遅れ ・遅れ					
	目標								
	実績								
事業進捗状況(4年度)									
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)		令和4年度に整備完了を予定していたが、入札不調による工事着手の遅れや、新型コロナウイルス感染症の影響による照明機器の納期遅延などから事業期間が延伸した。							
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	うらおいと魅力ある港湾空間の形成のためには、海上交通ネットワークの形成を進める必要がある。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっていないか?	○							
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○	金城ふ頭の小型栈橋の整備により、海上交通ネットワークの形成に向けて、利便性を向上させることができる。						
	期待どおりの成果が得られているか?	○	感染症等の情勢から事業はやや遅れているものの、整備完了に向けて進んでいることから、成果が得られている。						
効率性	最小のコストとなっているか?	○	コストが最小になるよう事業を進めている。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由	
		成果	コスト	工事の入札不調や新型コロナウイルス感染症の影響により事業進捗状況が「やや遅れ」となったが、利便性の向上を図りながら海上交通ネットワークの形成を進め、うらおいと魅力のある港湾空間の形成に向け、金城ふ頭小型栈橋整備を完了する必要があるため。
延伸	維持	維持		
課題		5年度以降の取組		
金城ふ頭小型栈橋整備完了を目指し、工事を着実に進めていく必要がある。また、水上交通の誘導を進める名古屋市と連携・調整していく必要がある。		海上交通ネットワークの形成を進めるため、利便性の向上に向け、金城ふ頭小型栈橋整備の完了を目指す。また、水上交通の誘導を進める名古屋市と引き続き、連携・調整していく。		

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり			3年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 誘致推進課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト		
事務事業名	クルーズ船誘致の推進			継続	維持	維持	連絡先
目的	対象(誰・何を)	クルーズ船					連携課
	意図(どういう状態にしたいか)	名古屋港へのクルーズ船の寄港増加に向けた取組を進め、港の魅力や親しみの向上を図る。					事業期間
概要	名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議で策定した「名古屋港クルーズ船誘致に向けた行動計画」に基づき、クルーズ需要喚起に向けた情報発信や魅力発信に取り組む。						根拠法令等
							実施義務
							関連シート

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	フェイスブック等のSNSを活用し、感染症禍においても継続的に運航された国内クルーズ船や入港が再開された外航クルーズ船の入出港等について情報発信した。また、ホームページにてクルーズ船の入港予定のほか、クルーズ船に対する信頼や安心を回復するため、クルーズ船入港の際の名古屋港、国、関係団体及び船社の新型コロナウイルス感染症(以下「感染症」という。)対策など、安全・安心の取組を県民・市民に対し情報発信した。船社に対しては、この地域の観光施設等で実施されている感染症対策について情報発信を行った。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	843	93	55	136	令和2年度から4年度について、感染症の影響により国内外におけるセールス活動等の一部又は全部の実施ができなかったことから事業費が減少している。
人件費	千円	17,889	17,864	17,550	17,550	
合計	千円	18,732	17,957	17,605	17,686	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
情報発信数(件)	目標	10	30	33	36	40		一般市民向けにSNS等を活用したクルーズ船情報等発信数	感染症
	実績	10	15	20	44				
【単年度管理型】	事業進捗状況(4年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
	目標								
	実績								
	事業進捗状況(4年度)								
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)		国内クルーズ船が継続的に運航され前年度より入港隻数が増えたこと及び外航クルーズ船の入港が3月より再開されたことから、その機会を捉え効果的な情報発信ができた。また、外航クルーズ船入港再開にあたっては、クルーズ船入港の際の感染症対策など、安全・安心の取組を県民・市民に対し情報発信できた。							
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	クルーズ船の誘致推進は港湾管理者である本組合が主体的に取り組むべき事業と考えます。港の認知度向上に資するように努めていく必要がある。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○							
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○	クルーズ船への親しみを深め、関心を高めることが施策目標の達成には必須の条件と考える。そのためにも、クルーズ船に対する信頼や安心を回復する必要がある。令和4年度はコロナ禍においても22隻の国内クルーズ船と5隻の外航クルーズ船を受け入れることができ、うるおいと魅力のある港湾空間の形成に貢献していると考えます。						
	期待どおりの成果が得られているか?	○							
効率性	最小のコストとなっているか?	○	実施にあたっては直接的な支出を抑えて行っている。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	クルーズ船の入港状況の回復に伴い、港ににぎわいを創出すべくクルーズ船誘致を引き続き推進する必要があるため、5年度以降の方向性を「継続」とし、成果、コストともに「維持」とした。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			5年度以降の取組
3号岸壁改良工事に伴い、一般来港者の見学スペースに制限がかかる中で、適切な情報発信を行うことでトラブルを未然に防ぐ必要がある。また、感染症対策について、国等の動向を注視し、適切な情報発信をしていく必要がある。			国内クルーズ船及び外航クルーズ船の入港状況の回復の機会を捉え、積極的かつ効果的な情報発信を行うとともに、3号岸壁改良工事の状況や感染症対策に関する国の動向も注視しながら適切な情報発信を行っていく。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおい・にぎわいのある親しまれる港づくり			3年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 誘致推進課長
施策名	うらおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト		
事務事業名	クルーズ船乗客の安全で円滑な受入対応			継続	維持	拡大	連絡先
目的	対象(誰・何を)	クルーズ船乗客					連携課
	意図(どういう状態にしたいか)	乗客が安心して名古屋港で乗下船したり寄港地観光等に向かうことができるよう、クルーズ船寄港時の受入態勢を整え、適切に対応する。					事業期間
概要	クルーズ船運航船社や関係官庁等と協議の上、必要な受入態勢を整えるとともに、港湾運送事業者等、他の利用者の状況も踏まえ、ふ頭全体で安全で円滑な対応ができるよう取り組む。						根拠法令等
							実施義務
							関連シート

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	ガーデンふ頭3号岸壁改良工事の影響により、国内クルーズ船の一部について2号岸壁や金城ふ頭での受入れとなり、外航クルーズ船も2号岸壁において安全で円滑な受入れを行った。 また、国内クルーズ船は、「名古屋港におけるクルーズ船受入の際の感染拡大予防マニュアル」により感染症対策を徹底し、受入れを進め、外航クルーズ船は、同マニュアルを外航クルーズ船に対応したものに改訂して令和5年3月より受入れを再開した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	9,062	1,681	2,471	31,249	令和5年3月より外航クルーズ船の受入れが再開され、令和元年度を上回る5隻の外国船の入港があったため事業費が増加した。
人件費	千円	17,889	17,864	17,550	17,550	
合計	千円	26,951	19,545	20,021	48,799	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
受入対応に起因する事故件数(件)	目標	0	0	0	0	0	クルーズ船の受入対応を業務として遂行する上で、安全かつ円滑に取組むことが第一と考える。本組合が取組むクルーズ船受入対応に起因する事故件数を0件にすることを目標とする。	
	実績	0	0	0	0	0		
【単年度管理型】	事業進捗状況(4年度)			目標値を上回る	目標値をやや下回る	目標値どおり		
	目標							
実績								
事業進捗状況(4年度)								
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)		受入れに起因する事故件数は0件で、目標を達成することができた。						
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	クルーズ船の受入対応は港湾管理者である本組合の事業であり、乗客の安全、円滑な受入を適切に実施することが求められる。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○	クルーズ船寄港時の受入体制を整え、適切な感染症対策等を実施することで、船社及び乗客に対し安全な港としてPRすることができ、クルーズ船の寄港増加につながるものとする。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○						
効率性	最小のコストとなっているか?	○	1年分の発注をまとめて行うことで1寄港当たりの費用を抑えるよう努めて実施している。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	クルーズ船の受入対応を業務として遂行する上で、安全かつ円滑に取組むことが第一であるため「継続」とする。また事故が0件であったことから、成果は「維持」とする。人件費の上昇や燃料費の高騰による設営費の増加があるものの、継続的にクルーズ船の受入れを行うために、1隻あたりの受入コストは「維持」とした。
課題		5年度以降の取組	
人件費の上昇や燃料費の高騰、感染症対策費用の追加、ガーデンふ頭3号岸壁改良工事に起因する受入費用の増加により、1隻当たりの受入コストが年々上昇している。今後は乗客の安全や円滑な受入体制を確保しつつ、設営物の配置や感染症対策の見直し、歓送迎行事等の精査など、受入費用削減について検討する必要がある。		引き続き安全で円滑な受入を継続するとともに、ガーデンふ頭3号岸壁改良工事の影響に伴い、2号岸壁又は金城ふ頭で受入れを行う際はより安全に留意する。また、乗客の安全や円滑な受入体制を確保しつつ、設営物の配置や感染症対策の見直し、歓送迎行事等の精査などにより、受入費用削減について検討する。	